

“認知症街ぐるみ支援ネットワーク”の目的は介護者、病院、行政、ボランティアなどのネットワーク作りを行い、認知症のご本人やご家族を支える仕組みを作ることです。

この講座では介護や福祉、医療に携わる方々に学習と交流の機会を提供し、いっそうの地域連携を進めることを目指しております。皆様のご出席をお待ちしております。

# 認知症の人と生きる ～ 私たちの役割 ～

お多福もの忘れクリニック

講師: 本間 昭先生

日時

平成 29 年 1 月 16 日 (月)  
18:30 ~ 20:30

定員

50名 お申込先着順  
※お申込方法は裏面をご覧ください。

場所

日本医科大学武蔵小杉キャンパス  
南館 2 階講堂

参加費

無料

最近、もの忘れ外来で独居の高齢者が友人などに付き添われて受診することが以前よりも多くなった気がする。受診のきっかけは様々であるが、軽度のアルツハイマー病と診断されることもあり、何らかの心気症状あるいは不安症状を伴っている。認知症疾患の代表であるアルツハイマー病 (AD) を例にとると、年単位の経過で見れば、認知機能、身体機能、精神機能などのすべての機能は悪化方向に変化する。このような特徴を示すアルツハイマー病のケア（ここでは“ケア”を医療と介護を含めて用いる）の目標とは何であろうか。生活機能の維持、別な表現をすれば、本人のニーズにしたがって生活をできるだけ続けられるようにサポートすることであることに異論はないであろう。これと関連して、認知症の行動・心理症状の軽減および介護

者の介護負担をさらに加えることもできる。このことは要支援・要介護高齢者の尊厳を支えるとした 2006 年に改正された介護保険法第 1 条にまさに示されている通りである。介護関係者に認知症ケアの目標を尋ねると、多職種間でコンセンサスが得られているかという、必ずしも一般的とは言えないようである。連携を云々する前提としてケア、つまり医療でも介護であっても、目標は同じであることの共通認識がまず必要になる。むろん、認知症者にみられる様々な言動や行動は脳病変を含む身体的要因に加えて、心理的および社会的要因などによって修飾されることをみれば、さきの目標を達成するためには多職種によるアプローチが欠かせない所以である。当日は認知症の人と生きるための私たちの役割を改めて考えてみたい。

# 公開講座 地域ケアの実現に向けて 第25回

## 参加申込書

受講票を1月5日以降、順次お送り致します。

**FAX 044-733-6688**

ご記入の上このまま送信下さい

**メール soudan@nms.ac.jp**

下記内容をメールでお送り下さい

(ふりがな)

お名前

連絡先 電話 (勤務先)

FAX

FAXで受講票を  
お送りします。  
正確にご記入下さい

電子メール

職業 医師 看護師 介護支援専門員 保健師  
社会福祉士 その他 ( )

勤務先

- 今回のテーマについて質問や聞いてみたいことをお書き下さい

### ●会場のご案内

日本医科大学武蔵小杉キャンパス 南館 2階講堂  
JR 南武線、東急東横線・目黒線 武蔵小杉駅北口  
より徒歩 2分

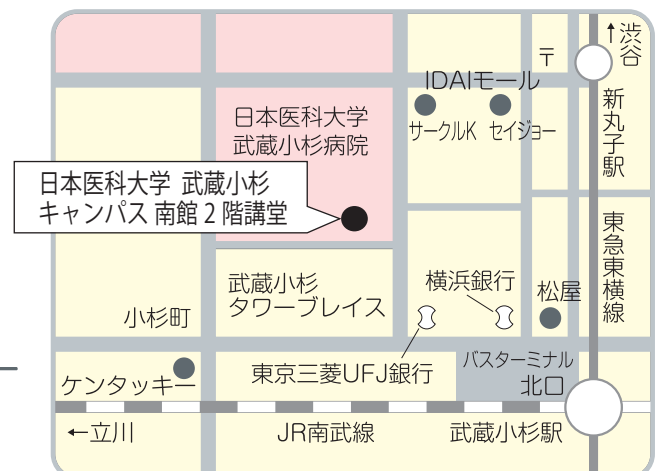
### ●お問い合わせ

日本医科大学  街ぐるみ認知症相談センター

住所 〒211-8533 川崎市中原区小杉町 1-396

TEL : 044-733-2007 FAX : 044-733-6688

mail : soudan@nms.ac.jp



<http://www.nms.ac.jp/ig/soudan/>